

番号	27 - 7	申請者	看護師 緒方 泉
<p>【審査申請課題】 ALSの病状の進行状況による段階的なアプローチの方法の検討</p>			
<p>【審査課題の概要】 当病棟は神経・難病、ALSセンターであり、県の拠点病院としての役割を担っている。ALSは進行性の疾患で呼吸障害や嚥下障害の進行に伴い、人工呼吸器の装着、胃瘻造設等の延命に関する意思決定への支援が必要となる。ケアの観点から継続的な意思決定が求められ、そのタイミングの遅れは、極力避けなければならない。しかし、揺れ動く患者・家族の思いをタイムリーにキャッチしたアプローチができない場合が多い。そこで、今回、在籍している看護師をはじめ、ALS疾患という特有の病気に対して、新人看護師や異動してきた看護師が対象者の全体像の把握と看護介入のタイミング、段階的なアプローチの方法を理解した上で、統一した看護をそれぞれの患者に応じた対応ができるようなケアプラン表を作成し活用を試みたいと考えた。そのために看護師を対象にアンケート調査を行い、ALS患者の進行段階での介入について、看護師がどのようなことを困難に思っているのか現状を明らかにする必要があると考え本研究に取り組みたい。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 8	申請者	看護師 小幡 育子
<p>【審査申請課題】 転倒・転落における看護師側の要員分析 ウォーキングカンファレンス導入前後の比較</p>			
<p>【審査課題の概要】 500床の一般病棟の呼吸器センターでは、肺癌をはじめ慢性呼吸不全、肺炎の高齢者が多く、環境の変化、身体状況の変化などからせん妄状態を引き起こすケースもある。昨年は、40件の転倒・転落インシデントが発生しており、内3件は骨折をしており重大なアクシデントになっている。現在、転倒予防の情報共有の場として、カンファレンスを行っている。入院後3日目・7日目の定期評価日以外にも、状態変化時には転倒転落アセスメントシートを使用し、リスクが高い患者には計画の修正や転倒予防の対策を講じている。しかし、カルテ上や担当からの情報をもとに行っているため、患者本人を知らずに参加しているスタッフも少なくない。また、病棟の背景として新人や病棟経験年数の少ない看護師も多く、転倒・転落リスクに対する行動の差がみられている。今回、転倒・転落インシデントにおける看護師の行動に関わる要因を分析し、ウォーキングカンファレンスを導入することで知識や経験、観察の視点などの共有ができ、看護師の行動に関わる要因が変化するのではないか考え、その効果を検証する。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 9	申請者	看護師 山崎 遥香
<p>【審査申請課題】 小児混合病棟における思春期看護の実態とジレンマ</p>			
<p>【審査課題の概要】 近年、子ども達を取り巻く環境は複雑になっており、いじめや不登校、虐待、引きこもりなど子どものこころの健康に対する支援が重要になっている。 当病棟では、こういった問題を抱える児の入院受け入れを行っており、長期入院となる際には近隣学校への通学支援を行っている。年々、入院してくる児の家族背景は複雑化しており、リストカットや暴力など児自身が抱えるこころの闇は深刻さを増している。しかし、当病棟では、思春期看護に加え、重症心身障害児のレスパイト入院や急性期疾患看護を行っている。現在、保育士1名が勤務しているものの、心理士などの専門性をもったスタッフの関与がなく、看護師が担う役割は大きいと言える。こういった状況の中で、看護師は生命の優先順位によっては、思春期の児に対するこころのケアを優先できず、児に対して十分に関わる事ができていないのではないかと戸惑いや葛藤を抱いている。こういった思いの中で児に対するケアを行っており、児の言動に対する言葉かけなど専門的なカウンセリングの方法をケアに対する意味づけができないまま、より一層看護師の戸惑いや葛藤を抱いている現状がある。そこで、現在、看護師がどのような関わりを行っているのか、どのようなジレンマを抱えているのか、質問紙を用いた調査を実施し、当院の思春期看護の在り方・方向性を導き出したいと考えた。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 10	申請者	看護師 山田 昌美
<p>【審査申請課題】 慢性疾患患者家族の支援能力に関する実態調査</p>			
<p>【審査課題の概要】 昨年度慢性疾患患者のセルフケア能力に関する実態調査を行った結果から、同居している家族はいるが、患者に即した症状コントロールのための健康管理法の獲得と継続が困難という結果がみられた。このことから同居している家族の患者を支援する能力が低いことが考えられた。慢性疾患患者は服薬管理、食事療法など様々な支援が必要とされる。これまで家族を対象とした研究は少なく、家族として疾患をコントロールするための関わりが出来ていたのか明らかにされていない。同居している家族支援体制の調査を行い、同居人の出来る部分(強み)と出来ない部分(弱み)を明らかにし、今後の退院支援に活かしたい。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 11	申請者	看護師 二宮 佳与
<p>【審査申請課題】 転倒転落アセスメントシートを活用したカンファレンスによる看護師の意識の変化</p>			
<p>【審査課題の概要】 A病棟では、70～80代の患者が多く、入院の原因は転倒による骨折が多い。昨年度は、術後より徐々にADLが拡大している最中の転倒により、入院期間の延長を余儀なくされた事例が4件あった。転倒転落の発生を予測し対策を行っていたにも関わらず、あと一步のところまで発生を防ぐことができなかった。その原因として、患者の排尿パターンや患者自身の現在のADL状況に対する思いなども含めた患者の全体像を捉えた看護師の危険予測能力が不足していたからではないかと考えた。そこで、転倒転落アセスメントシートを用いて転倒転落防止策についてカンファレンスを行うことにより、看護師の転倒転落に対する意識が変化するのかを明らかにすることを目的とし、研究に取り組むこととした。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 12	申請者	看護師 橋本 亜季
<p>【審査申請課題】 神経筋難病看護における看護師の達成感の変化</p>			
<p>【審査課題の概要】 神経筋難病の多くは、原因不明や治療法が未確立のために、経過が長期に及び、運動障害を中心とした症状が進行することから、患者の身体的負担だけでなくケア提供者の負担も大きいことが報告されている。神経筋難病患者のケアに携わる看護師の職場環境ストレスに関する先行研究において、神経筋難病患者の看護に従事する看護師のバーンアウトに最も影響を及ぼす職場環境ストレスは「看護における不全感」で、患者が求める個別性の高い看護・支援について十分なケアが行なえていないと感じた時に、ケアに対して達成感を得にくいと感じていると考えられる。神経筋難病看護では看護技術として確立されている一般的なケアとは違い、個別的な日常生活援助が主であり、患者によって求めるケアが異なる。A病棟は長期入院患者が多く、これまで行なってきた看護ケアが患者や看護師間で当たり前となっているため、新人看護師や異動してきた看護師への指導内容も根拠が伴わないケアの方法を指導することが多い現状にある。昨年度の研究アンケートではA病棟看護師は看護における不全感を抱いていたり達成感が十分得られないといった結果が得られた。先行研究において、リフレクションによって対象者への理解や認識が深まり、また、対象者の新たな側面を発見し、看護実践をおこなうことで、更に、新たな看護の可能性に気づき、その可能性の気づきが自己成長・自己実現、自信ややりがいへと繋がっていたと述べられている。今回の研究では、リフレクションを活用して日々の看護実践を振り返ることで、神経筋難病病棟に勤務する看護師の看護における達成感の変化を検証する。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 13	申請者	看護師 田中 洋樹
<p>【審査申請課題】 筋ジス病棟における看護師のストレスとその要員 ～固定チームナーシング導入の効果における看護師の満足度～</p>			
<p>【審査課題の概要】 今までA病棟の看護体制はプライマリーナーシングをとっていたが、今年度より固定チームナーシングへと移行となった。そこで看護体制の変化に伴いスタッフの感じるストレス、モチベーションの低下に固定チームナーシングがどのような効果を与えるのか、看護師の満足度に焦点をあて明らかにすることにした。その結果より今後の固定チームナーシングの方向性と今後の課題を明確にするために本研究に取り組むことにした。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 14	申請者	看護師 大内山 涼子
<p>【審査申請課題】 重症心身障害児A氏の睡眠・覚醒パターンに関連する要因</p>			
<p>【審査課題の概要】 日頃よりA氏の活動と休息のパターンが不規則であることに疑問を持っていた。重症心身障害児(者)では脳機能の発達が不十分であるため、しばしば不眠がみられることがある。それ以外にもA氏は全盲であるため、メラトニンの作用がうまく機序せず、睡眠障害になっている要因が考えられる。重症心身障害児(者)の睡眠障害に対する先行研究では、日中の関わりを充実させ、覚醒を促すことで、夜間良眠できたという報告が挙げられている。また、睡眠―覚醒のアセスメントをすることでケアの方向性を見出せたという報告もある。A氏の場合も日中の関わりを充実させることで夜間良眠できることに繋がり、その結果、呼吸器回路外しも減少できるのではないかという仮説を立てた。そこで、今回の研究では、A氏の睡眠と覚醒のパターンを調査し、そのパターンに影響を与える要因について明らかにしたいと考える。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 15	申請者	看護師 松山 桂
<p>【審査申請課題】 重症心身障害者における口腔ケアジェルの効果</p>			
<p>【審査課題の概要】 今までつくし2病棟では口腔ケアの方法として歯ブラシでブラッシング後、水で流していた。特に出血の多い患者に対しては歯磨き後にスポンジブラシに浸したデンタルリンスを塗布していたが、効果は得られなかった。歯周病を進行させる因子は薬剤の影響、筋緊張による歯ぎしり、食いしばり、開口困難、過敏症、唾液の減少など様々であるが、直接的な原因は歯垢(プラーク)である。疾患に関連する要因を取り除くことは難しいが、歯垢は日々の口腔ケアで取り除くことが出来ると考え、外部の研修で聞いた抗菌作用、虫歯予防にも効果的で口腔内を保湿し、歯垢を落としやすくする口腔ケア用ジェルを毎日の歯磨きに使用したいと考えた。さまざまな要因を抱える重症心身障害児に対して抗菌効果や消炎効果からのアプローチが歯肉炎や口臭にどの程度効果があるのか明らかにしたいと考え研究に取り組んだ。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 16	申請者	看護師 淵田 慶一郎
<p>【審査申請課題】 男性看護師が抱く思い ～職務満足度の向上をめざして～</p>			
<p>【審査課題の概要】 一般的にはまだ女性の職業であるといったイメージが強い看護師であるが、男性看護師の従来の配属先として一般的であった精神科領域や手術室、集中治療室などに加え、近年は一般病棟への配属も珍しくなく、役割は拡大しており需要は今後も増加していくと考えられる。A病院においても、ここ数年で男性看護師の採用人数は増加しており、看護師総数372人に対し、男性看護師29人(H27.6現在)と約8%ではあるが各配属病棟でそれぞれの役割を担っている。今回、看護研究の担当者2名は男性看護師であり、また研究担当者が所属する当院手術室において本年度4月より初の新人男性看護師が配属された。男性看護師が看護師として考えたり感じたりしていることを調査することで、抱えている問題や不安を明らかにし、職務満足度の向上をめざす。それによってA病院全体での男性看護師の教育やキャリアアップなどに活かすことができ、一人でも多く長く働くことができる環境づくりに役立つことができればと思い、看護研究として取り組みたいと考えた。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		

番号	27 - 17	申請者	副看護師長 藤田 直子
<p>【審査申請課題】 外来看護師による退院前訪問の有効性</p>			
<p>【審査課題の概要】 従来、入院治療を中心に癌化学療法は行われてきたが、診療報酬改定によりこれまで入院環境下で行われていた化学療法が外来通院で実施されるケースが増えてきている。A病院はがん診療拠点病院でもあり今後ますますの外来化学療法の増加が見込まれ、入院治療から外来への継続治療導入に向けた関わりが重要となってくる。現在A病院の外来化学療法は一定の経験のある病棟看護師と外来看護師の担当制となっており、外来化学療法のオリエンテーションは初回入院治療を行った病棟看護師が外来化学療法の配置図を元に説明を行っている。オリエンテーションの内容が統一できていない為、病棟看護師と治療を行う看護師の連携がうまくいかず、十分な説明が出来ていない状態で初回治療に来院することや、外来看護師が患者の不安や要望を理解できていない状態で初回の治療を行う場合もある。そこでA病院でも外来化学療法前のオリエンテーションとして外来化学療法を担当する外来看護師が統一した内容で退院前訪問を実施する事で外来・病棟の看護師間の情報の共有に繋がり、患者が安心して外来化学療法治療を受け入れる働きかけになるのではないかと考えた。</p>			
審査結果	承認 (平成27年9月24日)		